HAKUKOUKAI

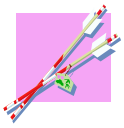
社会福祉法人　薄光会　広報紙

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。
http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/
各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成１８年2月２０日
社会福祉法人　薄光会　広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1　TEL 0439-68-1711
三 芳 光 陽 園：〒294-0825 千葉県安房郡三芳村上堀 280　0470-36-3211
鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297　04-7099-3311
湊 ひ か り 学 園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18　0439-70-6551(デイ)
0439-70-6552(通所)

『年頭雑感』



明けましておめでとう御座います。暖冬の予測がはずれ。測候所設立以来の寒波に襲われ記録続きの大雪が毎日の様に報じられて居ります。

一方世の中に目を移すと一連の幼女誘拐殺人事件、姉歯設計士他の耐震偽造事件、ライブドアによる株価操作事件、等々社会不安を醸し出す混沌とした事件が多発して居ります。その様な折、世の流れも又、大きく変わろうとして居ります。

先の総選挙で、私達は、改革の旗印の下、郵政民営化を選び「大きな政府から小さな政府へ」「民間で出来る事は民間に」と云はれる様に、国鉄、電々、専売、郵政、等、巨大な公社を抱えた「実体的**社会主義経済国家**」から「規制の少ない、利益を産み出す事も少ない**資本主義経済国家**」を選択致しました。既に長銀、日債銀、等の国有金融機関、国立病院や大学、道路公団、その他多くの特殊法人が政府の手から離れ、一般会計に含まれない膨大な特別会計も財政投融資も近年中には矮小化され、もはや政府による手厚い福祉国家構想などは望むべくも無くなりました。年金、介護や医療も既に保険制度であります。

その様な中、私達は老いて子供達の生活を支える事が出来なくなったり、自分達の亡き後、重度知的障害の我が子等の行く末を思い、子供達の幸せのみを考え、施設作りに、或いは運営にと共に力を携え努力を続けて参りました。結果、行政其の他の援助も有り、今では四施設八事業を運営するようなグループになって居ります。

障害者福祉を取巻く環境も、既に公的**措置制度**から自助努力を中心に据えた自由契約による**支援費制度**にと大きく変化致しました。この契約制度の下では、個人の行為能力が不可欠で、法定代理人制度、法定後見人も不可避になります。この制度をクリアーする目的も有って昨年は保護者の有志が「NPO ひかり」を立ち上げ、十一月に県の認証を受け設立登記を完了させた事はご承知の通りであります。

又、本年四月より施行される、名ばかりの障害者自立支援法では、生活費の自己負担と応益負担を原則に所得や資産、及び障害の程度による支援の区分化、等々険しい現実が待ち構えて居ります。国又は県等、公による福祉は徐々に衰退して行く事は自明の理でもあります。

とは云え当初より考えて来た「望みさえすればライフステージに沿って生涯支援し続ける事の出来るシステム施設」の構想をここで中断させてしまう訳には参りません。

制度改訂に伴う落伍者を一人も出さない為に私達は差し当ってはケアーホームを持つ事が必要不可欠となりました。此れを五年の猶予期間中に完成させねばなりません。

次に公の福祉がこの様に期待薄くなった現在、老後の蓄えなど考える暇も無く、唯々子供達の幸せのみを考え、施設作りに、或いは運営にと奔走し、子供達及び施設を支えて来て、何時の間にか年を取り、自立さえ困難になり要介護の認定を受けたり、或いは家庭の事情等で老後に一抹の不安を感じたりする仲間達の行く末をどの様に考えて行くべきか？

自立出来無くなった親達の後見人問題と終の棲家安住の地をどの様に考えて行くか？皆さんのご意見を伺いながら、例えば特養のサービスを受け易い形で近くに温泉を利用した親達の交流ホームを兼ねたバラエティに富んだものを考えて見たらとも思って居ります。

法人設立当初を思い起し、もう一度だけ自助努力を重ね、何か支えになる温もりの有る場を造って置きたいものです。「天は自ら助くる者を助く」

以上

薄光会　理事長
山崎　幸男

豊岡光生園　園だより

雪道

今年の冬も、光生園に　『雪道』　が出来ました。その雪道で、さまざまなことが起こっています。

今年初めて雪が積もった日のこと。

まるで「ゆき」の歌の猫のように、温かい部屋の中に丸くなっている利用者。きらきらと光に反射する雪を目を細くしてみています。

『今日は雪が積もってしまったのですが、元気な人は散歩してきましょう』

その細い目が、大きく開きました。

その提案に、利用者はあせってしまったようです。特に日頃から地域清掃とか、山登りなどの体力を生かした活動にチャレンジしている元気者の集まり、ファイターズの方々は　『元気な方・散歩』という言葉にはとても敏感です。『俺たちのことだ』と察したのでしょう『今日は寒い！　カンベン！』とばかりに大慌てで、トイレやら、居室やらに、逃げるかのように散らばり始めました。中には、寝たふりをする人も・・・。

それでも職員達はめげません。　『雪の積もったときにしか経験できないでしょ～、今日しかないかもしれないぞ～』

みんなにしてみれば、とても迷惑なのかも知れません。でも、今までは凍った道を歩くなど、わざわざ危険に飛び込むようなことはしませんでしたが、今年は違います。滑る場所を歩くことは利用者にとっても、いろいろ考えながら歩かなくてはならないからいい経験となる、そう判断したのです。

何とか納得してくれ外へ出た利用者。それをみていて、自分から参加してみたくなる利用者もいました。

「キャー・キャー・ワー・ワー」　みんな自分の気もちをいろんな声にして出かけていきました。園庭は雪があり凍っていないため難なく通過。（いつもは足元を見ない利用者達、今日はしっかりと足元を見ています）園庭を出ると、そこは氷の世界です。

アスファルトの道は、職員が雪かきをした後ということもあるのか、凍っていて滑ります。みんな一歩一歩が真剣です。５メートル歩いたでしょうか？　交流ホームの前で、滑って転んでしまった人がいました。

さ～、大変です。みんな転んだ人を助けようと、手を引くのですが、引けば自分が滑り転んでしまいそうです。歩くのをやめて、その場に止まっていても、ズルズルと足が滑っていきます。バランスを取ってその場に立っていることで精一杯です。こんなこと初めてでしょう。みんなどうしていいかわかりません。

「きゃー」「ウォー」「○×※△・・・」　という声が響き渡ります。

職員も、一生懸命、助けようとしますが、自分が転んでしまい、逆に助けを求めています。そんな状況を見て、更にみんなの声は大きくなります。（きっと、大きな声を出して助けを求めているのでしょう）

何とか転んだ利用者を助けることができたとき、なんとも言えない声があたりに響きました。（みんな自分が転ばないように注意しながらも、転んだ人をどうにかして助けなければと思っていたんです。）

雪道散歩は、この時点で終了となり、園内へ退散することとなりましたが、多くのことを経験してもらえたのではないかと思います。また、みんなの優しさを十分に感じることが出来ました。

園内に戻った利用者は、安心したような表情で、また、猫のように丸まって過ごしていました。

パート２

氷も解け始め、安心して散歩ができるようになりました。

今日も元気組のファイターズはちらほらと雪の残る景色を見ながら散歩へ出かけます。

光生園よりも日のあたらない場所があるようで、トンネルをくぐり終えた場所はまだ凍っていました。

ズルッ　先頭を歩いている職員が滑りました。すぐに

『ここ滑るから、気をつけてね～』　みんなに大きな声で知らせます。

なのに・・・。「ズルッ・・・ズルッ・・・ズル・・・　・・・」みんなが滑ります。十二名、散歩していたみんなが見事に同じ場所で滑ったのです。

油断大敵。　トンネルで滑った後は、みんな足元を見て歩くようになりました。

〈加藤　千〉

三芳光陽園

光陽

『はじめの一歩』

『認知症のお年寄りが赤ん坊をあやし、余命いくばくもない状態のお年寄りが、隣で寝ている赤ん坊の背中をなで、寝かしつけている』

そんなスライドを見ながら富山弁丸出しで語るＮＰＯ法人代表の女性の言葉は、まさに目から鱗が落ちた思いがした。

「福祉関係の仕事がしたいんだけど・・・」大学を卒業後、保険の代理店の営業として日本全国を飛び回って四年。決して仕事が面白くなかった訳ではないのだが、ふと、そう思い立ち、親に相談し、たまたま縁があって勤めることになったのが豊岡光生園。

面接で今は亡き鈴木理事長に「あんた、あんまり神経質でなさそうだから勤まりそうだな」と言われ、茫然自失の状態で昼食の介助に入り、山﨑理事長の息子に、最後に食べようと思って取っておいた鶏のから揚げを取られ、途方にくれたのを覚えている。

夜勤明けの眠い目をこすりながら玄関を出た時、後ろから送ってくれたかわいい入所者の「またね！」の声がなぜかうれしくて、『やってみようかな・・・』なんて単純（不純）な動機が始まりだったが、自分なりに情熱を持ってこの仕事に取り組んできた。豊岡光生園、鴨川ひかり学園、三芳光陽園と移って十六年が過ぎた。

福祉制度は措置制度から介護保険、支援費制度へと変わり、福祉が福祉でなくなりかけていると感じながらも、どうしようもない自分の無力さと施設福祉の限界を痛感し、やり場のない気持ちをもてあましていた、そんな時だった。

「富山型」と呼ばれるＮＰＯ法人「この指とまれ」の実践。認知症のお年寄りや障害を持った児童、幼児が一緒に生活し、人生の最後を看取るところまで行うという。老人、障害者、児童といった制度の壁を越え、純粋に利用者のニーズに応えるという本来の福祉の姿を見せ付けられた思いがした。『できるなら、自分も全てを投げ打って取り組んでみたい』そう思わせるものであった。お年寄りと赤ん坊が微笑みながら向かい合い、それを見つめる自分がいる、そんな夢を感じられた時間であった。

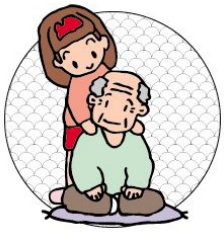
さて、現実に戻って、自分はこれから何ができるのであろうか。千葉県は『健康福祉千葉方式』ということで、こども、障害者、高齢者等の対象者別になっている施策を横断的に捉える施策の展開を図り、白紙の段階から、当事者を含めた県民と行政が協同して計画や施策を作り上げるという方針を掲げている。

三芳光陽園は知的障害のお年寄りと、認知症のお年寄り、その他様々な障害を持たれたお年寄りが支えあい、助け合って生活している施設である。

ここに、子供や障害者その他、現在の制度では手を差し伸べることが難しいニーズを持った方たちが加わり、地域に根ざした新しい福祉の形が作り上げられないだろうか。『健康福祉千葉方式』を三芳光陽園から始めることはできないだろうか。そんな夢が実現できたら・・・。

ということで『はじめの一歩』を踏み出してみようか。

（施設長　神谷　亨）



『ところ変われば～デイサービス～』

当園のデイサービスは平成六年四月に特養に併設して開設されました。昨年十一月からデイサービスセンターを食堂の広いスペースに移動し、あわせて利用定員を十二名から二十名に増員することとなりました。

移動にあわせて新しくテーブルと肘掛け椅子を購入し、今までとは違ったスタイル、雰囲気で食事やレクリエーションを提供しています。新しいテーブルを囲み、気の合う仲間で折り紙、貼り絵、はがき作りなどの制作活動、童謡、懐メロを歌ったり、ゲームをしたり、色々な活動がスムーズにできるようになりました。

一応仕切りはあるものの、特養の入所者と隣りあわせで生活しているため、新しい交流も生れています。皆さん大好きなカラオケが始まると、仕切りの両側から歌声が聞こえ、飛び入りの参加者が雰囲気を盛り上げてくれます。いい意味でのライバル意識が生れているようです。

また、ある時、新しく特養に入所者された方が遊びに来て、

「私の手は温かいから」といって女性職員の手を温めてくれ、肩までたたいてくれたといううれしいハプニングもありました。

窓際には畳のスペースを設けてみました。これで椅子、ソファー、畳、三つの空間をお好みで自由に使用していただけるようになりました。ある女性利用者は、

「日当たりも良く、暖かいから」と言われ、昼食も必ず畳で摂られます。ちょっと眠くなられた方の昼寝の場所としても活用されています。

これからも、快適で楽しく過ごせる環境作りときめ細かいサービスを提供できるよう努力し、お年寄りがいつも笑って過ごせるようなデイサービスを目指していきたいと思います。

（中村健二）

２月中旬、新しい送迎車両が入ります。

『一期一会』

三芳光陽園では、毎年多くのボランティアの方や実習生が来園し、お年寄りと生活を共にして交流を行っています。ボランティアの方の来園は、いつもと違う風を園内に運び、生活に張りを持たせ、充実した一日を送ることができます。来園された若い男性を見て昔を思い出し、頬を染めながら話しかけるおばあさん（元純情娘）や、可愛い女性を見てメロメロになっているおじいさん（元ハンサムボーイ）がいたり、ボランティアの来園は、お年寄りたちの楽しみとなっています。

先日は安房養護学校の生徒さんが来園し、一週間の実習を行いました。初日は緊張してお年寄りとうまく話ができない様子でしたが、しばらくすると、自分から楽しそうに話しかける姿が見られ、あっという間にお年寄りの輪の中に溶け込んでいきました。

お年よりも興味津々、お孫さんに話しかけるように色々な話をしたり、手をつないで廊下の散歩に出かけたり、普段接している職員を驚かせるくらい生き生きとした表情を見せてくれました。

最終日になると、別れの寂しさからか、そばで見ている職員たちを切なくさせるくらい複雑な表情を見せます。

「またね・・・」と言いながら、いつまでもつないだ手を離さなかったり、まさに『一期一会』、日々を大切に過ごしているお年寄りたちにとって、かけがえのない思い出となっているようです。

（石井竜一）

鴨川ひかり学園

ひかり通信

『エコーとナルキッソス』

ギリシャ神話に森の精エコー(山びこ)が登場します。ある神に余計なおしゃべりを禁じられたエコーは、美青年ナルキッソスに恋をしますが、自分の気持ちを伝える術を持っていません。近づいても自分からは話し掛けられず、ナルキッソスに「お前は誰だ?」と問われれば「オマエハダレダ?」と返すだけです。ナルキッソスには変な奴だと思われて相手にされず、やつれきって姿を失い、山びこの声だけになるのです。

これを別の神が見ていて、自分の美貌に見惚れるばかりで他人の想いを察しようともしないナルキッソスを、懲らしめに水仙の花に変えてしまう。だから、水仙の花言葉はナルシスト。

水仙にとっては、はたはた迷惑な話ですが、私はエコーに注目するのです。モデルは自閉症者ではないのか?ギリシャ神話が出来上がった時代にも自閉症者はいて、存在を否定されずに、物語の登場人物として当たり前に登場してくる。そして、エコーのおうむ返しの会話の向こうにある気持ちを汲むには、自分の理解に相手を当てはめるのではなく、自分の理解を広げていくことが必要だという教訓の話ではないのでしょうか。

ひかり学園のある曽呂地区は〝水仙郷〟として有名です。初春に散歩コースとして訪れると、風に乗って花の匂いが漂い、妖精達が恋慕の情を抱いて集まっているのが感じられるのです。

(住本)

『いつも、笑顔で・・・』

今年の成人式の主役は、傍にいると誰もがほのぼのとした気持ちになってしまう女性、古賀亜希子さんです。養護学校を卒業したばかりの頃は、大勢の大人の中で、慣れない活動や雰囲気の違う食事場面に戸惑っているようでした。しかし、自然と触れ合うことが大好きで、水と土と人間をこよなく愛する彼女は、持ち前の明るさと素直さで回りの者が驚くほど早く学園生活に馴染んでいました。

普段は慌てずゆっくり行動している彼女ですが、ロビーの方から走って来て、息を切らしながらにっこり笑った時の笑顔には、見た人達皆が思わず笑顔になってしまう不思議な魅力があるのです。

彼女の笑顔には、言葉やアロマセラピーよりも効き目の速い、癒しのパワーがあるように思うのは、きっと私だけではないと思います。

「いつでも、笑みを・・・」

(川名)

湊ひかり学園

学園新聞

「記憶に残る年賀状」

「届きましたよ！　すごいですね。」　新年早々、児童デイサービスの保護者の方々から多くの反響をいただきました。それは利用者の皆さんが手作りした和紙の年賀状がご家庭に届けられたからです。

　そんなの切手が貼ってありゃあ、届くんだよ・・・　な～んて事言わないでください。そこには半年も前からコツコツと準備していた利用者の皆さんの「汗」と「気持ち」が込められているんです。

　プールで水遊びをして、利用者の皆さんはちょっと眠そう（?）な七月のある日の午後、「児童デイサービス年賀状手作り計画」はスタートしました。まずは水くみ。紙すきに使う水はちょっとこだわり、近所の田原不動尊の湧き水をくみに行きました。水の入った重た～いバケツを交代で車まで運んでくれた男の子達、暑い中ありがとう。あとは涼しいお部屋の中での作業ですからね！

　一方、学園では女の子を中心に煮込んだ牛乳パックの表皮はがしに奮闘中！　指先を使う細かな作業なので、みんなすぐに飽きちゃいます。時間のある時に少しずつ頑張って、二ヶ月かけて作業を終える事が出来ました。これで紙すきが始められるゾ！

　十月に入り、いよいよ和紙作りの始まりです。木枠で型を取り、水気を切って、アイロンをかけるという一連の作業を職員と一緒にチャレンジしていきます。利用者の皆さんはもちろん、職員も真剣です。こうして手作りの和紙が出来上がりました。

　最後におうちの方への新年の挨拶をみんなで考えてみました。中には「お母さんありがとう」なんて心温まる言葉を書いてくれた利用者もいて、手作りのぬくもりと一緒に新年の朝、各ご家庭に届けられました。

　ゴワゴワしたちょっといびつな形の年賀状・・・利用者の皆さんの記憶に残る一年の始まりとなりました。

（吉　田）

「注射よりも怖いもの？」

　十一月某日、さっきまで微笑んでいたトシさんの表情が引きつってきました。トシさんの視線の先には白衣を着た人が何かを持っています。これは？！・・・　同じくそれに気付いたマサさん、不安を振り払おうとしてか、いつもの独り言が今日は特に力が入っている様子。逆に何も気付いていないスーさんはいつになく上機嫌で鼻歌混じりにトイレから出てきました。この三名は、実はとっても注射が嫌いな方々なんです。そう、今日はインフルエンザの予防接種の日。無事に終える事が出来るのでしょうか？

　準備も整い、いよいよ注射が始まります！　昨年の予防接種の際は大騒ぎをしてしまったお三方、見守る職員も緊張しています。しかし・・・イヤイヤながらも皆さん我慢してくれ、注射はあっけなく終了しました。

　年が明け、冬も本番を迎え、風邪をひかれる利用者も増えてきましたが、インフルエンザにかかる方は出ず、順調に・・・　と思っていたら、出てしまったんです、インフルエンザ第一号が！それは誰よりも注射嫌いな私、職員Aでした。

　予防接種を受けたからって安心していられない・・・　うがい、手洗い、室内の加湿等、これ以上の拡大を防ぐ為、私たち職員は現在奮闘しているのです。

（小　倉）

＊＊＊ちょっといっぷく＊＊＊

「祝・成人」

今年は五名の利用者が成人を迎えられました。おめでとうございます。

湊ひかり学園

圭二さん

花束を手にスーツでビシッときめて、にっこり笑顔の圭二さん。さあ、大人の仲間入りです。今晩、飲みにいきましょうか（笑）

利成さん

ご成人おめでとうございます。これからはピリッと辛口、大人の利成さんでいきましょう。ピンクの晴着が素敵！

晴美さん

ご成人おめでとうございます。見ているこちらが元気になってしまうような明るい笑顔を忘れずに、あせらず、じっくりと人生を歩んでいきましょう。

友美さん

普段はかわいい友美さんも、この日はお化粧してすっかり大人の女性に変身！　おめでとうございます。きれいですよ！

鴨川ひかり学園

亜希子さん

ご成人おめでとうございます。いつも明るい『ひまわり』のような女性でいてください。

＊個人情報保護法に基づき、写真、名前の掲載については本人、保護者の承諾を得ております。

【編集後記】

新年第一号、『きらめき第八号』です。巷では、今年も『荒れる成人式』が報道されていましたが、薄光会では湊、鴨川両通所施設の笑顔の成人式をお届けいたしました。

ちなみに、三芳光陽園では、昨年白寿のお祝いを迎え、今年五回目の成人式、百歳を迎えられるお年寄りがいらっしゃいます。めざせ、ギネスブック！

（法人広報委員会）